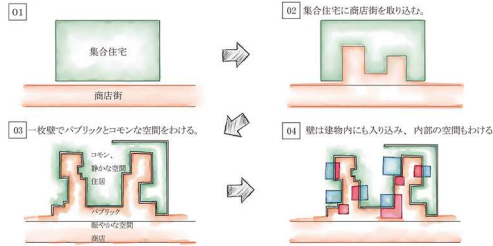


ダイアグラム

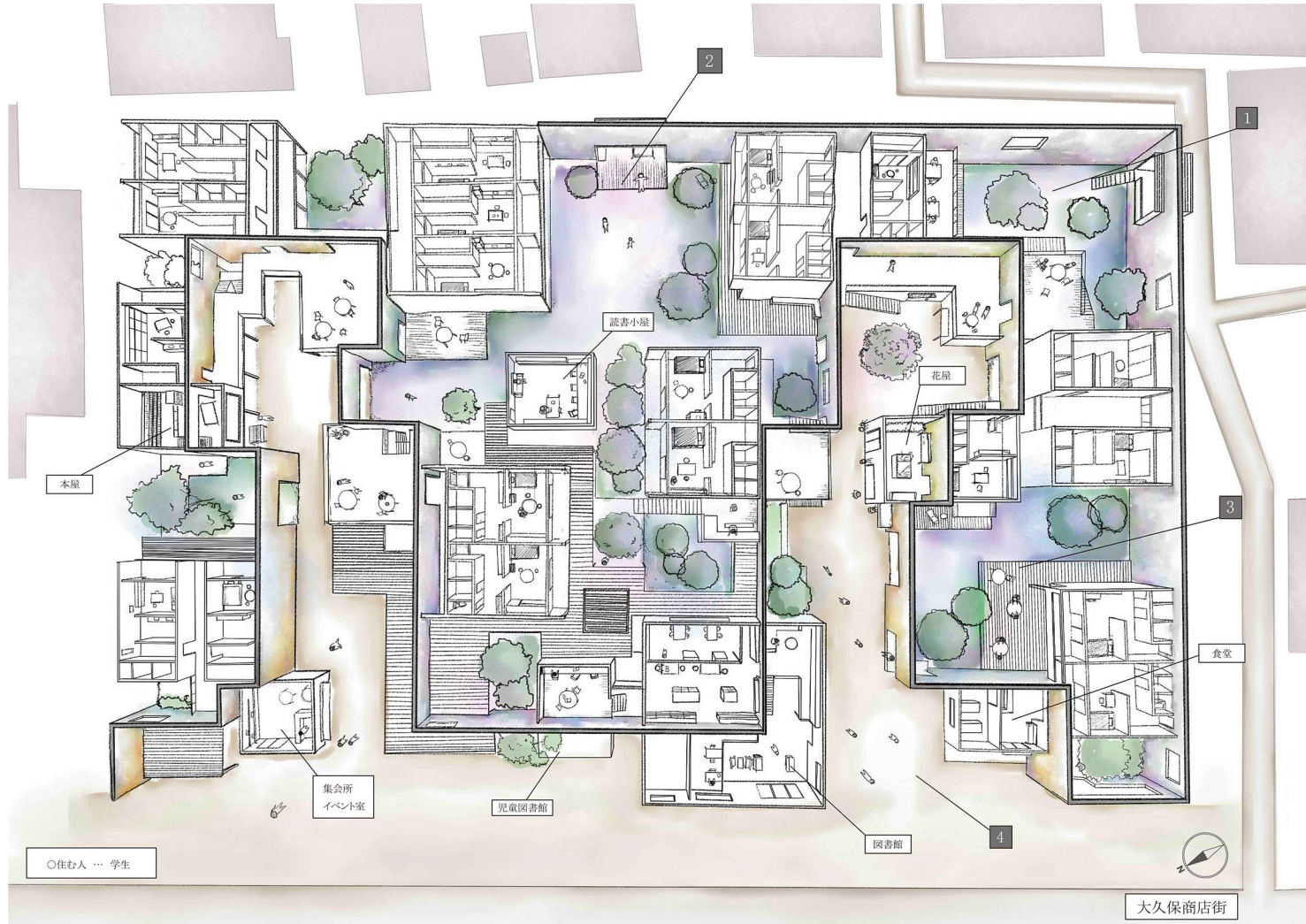
壁で生れる裏

学生が通るだけとなっている商店街に人の溜まり場をつくる。一本道である商店街に横の広がりをつくり、小さな商店街を取り込んだ集合住宅を提案する。商店と住居が混在するため、一枚壁を敷地の中に巡らせることで壁の表側は商店街の延長のような賑やかな空間、裏側は住居がある静かてくつろげる空間という二つの空間をつくった。



敷地

千葉県習志野市にある大久保商店街が課題の敷地である。大学や高校の通学路であることから、学生がよく通る場所である。



壁により生まれる空間



表…商店街側、賑やかでパブリックな空間  
商店の入口があり、人が入ってきやすい場所

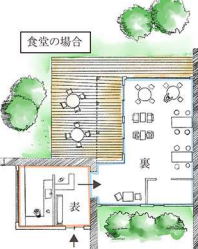
裏…住居側、静かでコモンな空間  
自然が多く、休憩したり本を読んだりできる場所

壁による変化(店)

- 店…カフェ、本屋
- 花屋、学習塾
- トレーニングジム
- レストラン

表 → 入口、会計  
調理室など

裏 → 緑葉に囲まれ  
静かに食事が  
できる場所



壁で囲まれた箱庭のような落ち着ける場所が点在している。集合住宅の奥にある庭ほどプライベート性が高いコモンな庭となる。

庭には共有して使うデッキがあり、本を読んだり、休憩したりできるようになっている。

壁により完全に外との関係を閉じた場所もあるが、大きな開口が空いていて、商店街側とつながっている場所もあり、多様な空間となっている。

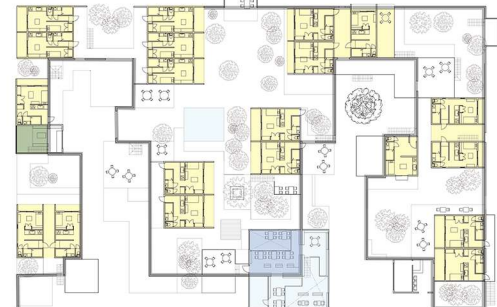
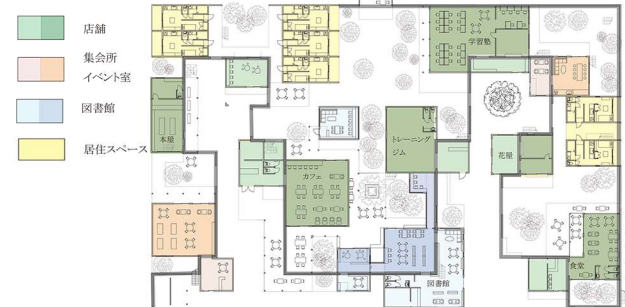
凹凸のある壁により、入り組んだ路地をつくる。そこには、くつろげる広場、立ち寄れる店舗などがある小さな商店街ができる。

図書館

第二課題では、集合住宅を一部改築して図書館を設計した。図書館にもこの集合住宅の秩序である一枚壁を挿入し、表側には入口、貸出受付や雑誌コーナー、事務室を、裏側には中庭に面するように閲覧室、児童図書コーナーを作る。図書館の中一枚壁はただの壁にするのではなく、大きな本棚として利用する。また、図書館は中庭に大きく開くようにして、一つの建物の中でだけの図書館ではなく中庭でも本を読めるようにする。



平面図 scale 1/400



立面図 scale 1/200  
商店街側

